

# おれんじニュース

No301

2015年4月号



2月22日、両子山に登った後、牛尾梅林の散策としゃれた。雨は小雨で梅は三分咲きだった。

## 今月の記事

第36回定期総会案内、あたらしい仲間、井原山・雷山、両子山・牛尾梅林、日岳・伊賀峰、県連冬山学校比婆山3点、小岱山、開聞岳

	2015年3月	2015年4月	時間	場所
運営委員会	10日(火)	<u>15日(水)</u>	13:30~16:00	西諫早公民館
全体集会	25日(水)	29日(水)	19:00~21:30	

## オレンジハイキングクラブ第36回定期総会

期日 4月4日(土) 13:00~16:00

場所 西諫早公民館

井原山

雷山



牛尾梅園の巻





## 2015 / 4月の山行

部	技術研修部	自然保護部	ひまわり山行部	山行部
月/日(曜)	4/12(日)	4/19(日)	4/24(金)	4/25(土)
山名(行事)	石割岳	高見岳・女岳	高岩山	高祖山・叶岳
地 図	十籠	彼杵・嬉野	雲仙	福岡西南部
集合場所	JR 諫早駅 6:20 JR 西諫早 6:30	JR 西諫早 8:00	JR 西諫早 8:00	JR 諫早駅 6:20 JR 西諫早 6:30
難 易 度	初級	初級	初級	初級
帰着時間	18:00	18:00	17:00	18:00
歩行時間	4h	4h	3.5h	5h
交通手段	マイクロバス	マイカー	マイカー	マイクロバス
宿泊施設	日帰り	日帰り	日帰り	日帰り
温 泉	星の温泉きらら	有り	有り	有り
参加費	5000円	1000円	1000円	5000円
申込期限	定員になり次第	定員になり次第	定員になり次第	定員になり次第
集 約	佐原	山口	金丸	高森
備 考	ヤマザクラとミツバツツジのトンネルを歩きます。穏やかな登山道です。星の村、九重の花等地名も美しい。	川棚の山、二座を歩きます。虚空蔵山を眺めながら近くの山をのぼります。	ミヤマキリシマの宝庫、宝原園地から登ります。ニシキウツギ、シモツケも見頃でしょう。	遠い昔に思いをはせながら怡土城跡、高祖城の山城跡をあるきます。歴史好き必見。
感想文提出	4/22	4/29	5/4	5/5

### 技術研修部だより

3月28日(土)	セルフレスキュー	西諫早駅	9:30
4月25日(土)	〃	〃	〃
5月30日(土)	〃	〃	〃





## 2015 / 5月の山行

部	ひまわり山行部	技術研修部	自然保護部	山行部
月/日(曜)	5/15(金)	5/9/10(土・日)	5/24(日)	5/31(日)
山名(行事)	九千部岳	諸塚山	長串山	天主山(1494m)
地 図	雲仙・島原	諸塚山	楠泊	緑川
集 合 場 所	西諫早駅 8:00	西諫早駅 7:00	諫早駅裏 7:50 西諫早駅 8:00	諫早駅裏 6:20 西諫早駅 6:30
難 易 度	初級	初級、	初級	中級
帰着時間	17:00	5/10の20:00	17:00	20:00
歩行時間	3.5h	9(3h)・10(4h)	3.0h	5.5h
交通手段	マイカー	マイカー	マイクロバス	マイクロバス
宿泊施設	日帰り	テント泊	日帰り	日帰り
温 泉	有り	無し	有り	無し
参 加 費	1000円	10000円	3500円	5000円
申 込 期 限	定員になり次第	定員になり次第	定員になり次第	定員になり次第
集 約	金丸	佐原	山口	高森
備 考	ヒカゲツツジを見に行きます。田代原の牧場から登ります。春の花一杯見られるよ。	アケボノツツジを見に行きます。キャンプは車横付けの楽ちんキャンプです。	県下でも有名なツツジの名所です。人ゴミにまぎれて迷子にならぬよう	ヤマシャクヤクが沢山あるので有名ですが一寸手ごわい登りです。
感想文提出	5/25	5/20	6/4	6/10

### あたらしいなかま



松田久美さん雲仙市在住

「初心者ですのでよろしくおねがいします。」



石田三枝子さん諫早市在住

「山登りは全く初めてです。よろしくおねがいします。」

## 2015年2月/3月の山行報告

2月15日(日)



### 井原山・雷山冬山縦走

(参加者) 兵庫(1PL)、福岡(1SL)、川内(会)、柳迫、大久保、田中静(2PL)、川原(救助)、高田、宮崎、森(会)、中須賀、小山 (12名)

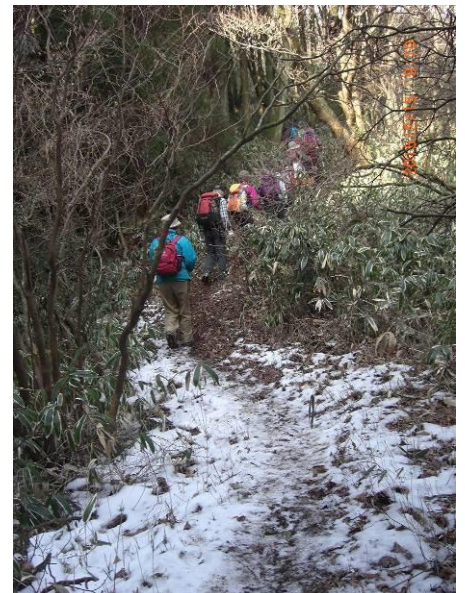
(行程) 6:20 諫早駅西口—6:35 西諫早前—7:25 佐賀大和 IC—7:35 道の駅大和—8:05 三瀬峠着—8:35 同発ウォーミングアップ—9:44 古場岳分岐地点—9:50 新村分岐—11:00 井原山着 12:30 昼食 12:50 同発—あらい谷分岐—14:00 雷山頂上—14:34 雷山神社上宮—15:45 清賀の滝—16:10 雷山観音駐車場

(感想) 県連スノーハイキング(2/28~3/1)の事前訓練の二日目として、2月8日の三俣山冬山登山につづいて背振山系での雪山訓練山行を行った。

2月15日西諫早6時35分発で背振山系井原山・雷山の二山を当初予定参加者の4人減の12名で縦走した。

三瀬峠登山口(標識には井原 4.3km 雷山 8.6km とある)を8時35分に出たがさすが福岡県の近隣の山とあってか西側からの山行者と行き交う事も多く全行程では20数名の登山者と行き会った。

あいにく好天すぎて、積雪も幾分はあるが少なくおもしろくないなーと想いながら歩き始めたが、高度を上げて行くにつれて雪の深さも増し、夜明けの冷却でアイスバーン状の登路もあ



った。アイゼン装着の必要の地点もあり有用な訓練となった。

慣れぬ雪山とあって予定の1.5倍を要して11時に井原山頂上、14時に雷山頂上に着いた。井原山頂上では大町から来たという二人の気さくな若者がおり、記念撮影をお願いした。

また雷山頂上ではこれまた若い夫婦連れがおり、これから下山の雷山上宮までの登路情報を得た。雷山からの千如寺への下山道は雷神社上宮までは冰雪地点もあり気の抜けない下りであった。途中の清賀の滝は凍ってはいなかったが見事な二段の滝、を見て16時に千如寺横の遊歩道入口に、一部には大腿部痙攣者も出たが大事に至らず、合計歩行時間7.5時間・12km、20,000歩でたどり着いた。

全体的評価としては、曇ったが雨は降らない・周囲の見晴



らしもは殆どなく・降雪量も少なく冬山歩きの訓練にはやや不十分な面もあったがアイゼン装着・雪上の歩行の訓練はできたと、皆満足としているだろう。(須賀 山人記)

2月22日(日)

### 両子山(337m)と牛尾梅林へ行こう！！

(参加者) 中里、松田、山口、川原、森、金丸(直)、工藤、柳迫、野中、佐藤、中野、川内、福岡、山下(ち)、一般(後田) (15名)

(行程) 諫早駅裏 7:50—西諫早駅 8:00—多良岳オレンジロード経由—柳瀬登山口 10:00—両子山頂上 11:20—12:30 納所小学校前—牛尾梅林頂上—(神楽殿にて昼食)—小城の村岡総本舗羊羹資料館—幸姫酒造—有明海温泉—諫早駅—西諫早駅

(感想) 8時頃小雨の中、西諫早駅を出発。いつも高速道路ですが今回はこれより多良岳オレンジロード経由で行き、県道284号の柳瀬バス停に10時頃到着した。

ストレッチを済ませ10時10分頃からミカン畑の中のオレンジロードを歩く。

40分位歩くと、ミカン畑の先に細い登山道が続いている。

どんな山かと思いつながら少し急だけど良く整備されている道を歩く。とても登りやすい道だ。

会のメンバーが偵察に来た時に道標の赤いテープを付けてくれていた。迷う事無くて感謝です。登りやすい山道から、樅や楠の木が多く樹のパワーを感じて30分たらずで山頂近くに行くと左に十一面観音、右に文殊菩薩、弘法大師の石像があった。



山頂は364m。山頂には熊野権現、山王権現の祠がありその前で集合写真を撮った。

往路と同じルートを下山し、途中から少し変え12時頃納所小学校前に着く。



これよりマイクロバスに乗り牛尾梅林に向かう。

梅林に到着。牛尾山一帯で一万二千本に及ぶと聞いていたが、まだ三分咲きで少々がっかりした。ここで昼食の予定だが、小雨がまた降ってきて、春一番の風も吹き肌寒い。雨の中での昼食かな？と思っていたけど、牛尾神社の境内に神楽殿がありそこで昼食となりました。床も木の香りが

して皆にこやかに楽しくゆったりした時間をすごせた。これから食後のデザートをとということで羊羹資料館に行った。一階は休憩所、二階はお菓子製造道具の展示室。隣は村岡総本舗の店舗で7,8種類の羊羹等の試食で皆ニコニコ顔。

頬一杯になりながら食べている様子をカメラに納めて私



も日頃お世話になっているかあちゃんに羊羹を一本購入。

それからは酒に目のないオレンジメンバーは鹿島の酒造蔵幸姫へ。マイクロバスを下りると目当ての地酒無料サービスへ一目散。有明海の名産をつまみにグイグイ試飲していました。楽しそうな恵比須顔になったところで太良町蟹御殿の裏の有明の湯で汗を流した。良い湯でした。今日は、羊羹、酒造、温泉のトリプル楽しみ山行でした。（野中 記）

## 2月27日（金）

### 日岳・伊賀峰

（参加者）福岡、川原、佐原、山口、吉川、船津、宮崎、川内、佐藤 （9名）

（行 程）西諫早駅前 8:00—三浦かんさく市 8:30—同所発 8:50—日岳 9:45—同所発 10:30—伊賀峰 11:20—同所発 11:30—三浦かんさく市 12:30—同所発 12:45—西諫早駅前 13:15 頃

（感 想）9名は西諫早駅前を8時、3台の車に分乗し、日岳の登山口である三浦かんさく市を目差して走り出し、8時30分同所に着いた。

同所の駐車場で川原さんの指導でストレッチを行い、その後日岳を目差して登り始めた。途中畑には梅の花が咲いていたり、鏡のような海面になっていた大村湾(登山道から見える範囲は津水湾とのこと)を右手に眺めながらコンクリート舗装された道を冗談等を言いながら登っているうちに日岳の山頂に着いた。そこからの眺めも最高で言葉では表現できない。



10時30分日岳山頂から伊賀峰を目差して下り始めてしばらくしたら誰かが、「車よ。」と叫んだ途端その車が止まった。あらっと思ったところ、その車の運転台には小山さんが乗っておられるではないか。福岡さんがこれからの行程を説明され、そこで小山さんとは別れた。

伊賀峰の登り口近くまで小山さんと合流出来なかったのが、ここで待とうということになった。そこで福岡さんが小山さんと携帯電話で連絡を取ってもらい、暫く待ったが小山さんと合流出来なかったのが、我々だけで登り始めた。

登り始めた途端急な坂道、その後は長い階段「はあ、はあ」言いながら登っているうちに伊賀峰の山頂に着いた。山頂には伊賀峰城跡と表示された立て札があった。

そこで川原さんから伊賀峰城跡の説明を受け昼近くになったが、日がさしていなかったので、下山途中の日がさしている所で弁当を食べ、福岡さんは小山さんと連絡を取り合っておられ、それから再び下山をはじめた。12時30分三浦かんさく市に着き、小山さんに再びお会いする事が出来た。三浦かんさく市のストアーで各自買い物をし、12時45分ごろから再び3台の車に分乗して家路についた。



日岳は登り易い山で、ハイキングコースとしては最適な山で、何と言っても大変見晴らしが最高であるということ。本日は天気も良かったし、皆さんのお陰で大変楽しい一日を過ごさせて頂きました。最後になりましたが、運転していただいた方々有り難うございました。

(佐藤 記)

## 2月28日(土)～3月1日(日)

### 県連冬山登山学校に参加して

(参加者) 川原、福岡、鎗水、中須賀、山下(ち)、松田、林(和)、高森、田村、田中(静)、  
県連全体(38) オレンジ(10)

(行程) 2/28 西諫早 7:40～大村～金立～広島県民の森 14:10～毛無山～県民の森公園  
センター

3/01 公園センター7:30～出雲峠～烏帽子山～比婆山(行動食)～公園センター  
12:00～金立～大村～諫早 20:00

(感想 1) 例年鳥取大山での訓練だったが、今年は広島  
の比婆山だった。雪は 1.5m程あった。日本海型と太平洋型の両方の要素を備えた中国山地特有のブナ林は国指定天然記念物になっている。

1日目は県民の森(800m)で各コース別に行動開始。

①スノーハイク②滑落停止訓練があったが、私は①コースに参加して毛無山(1143.7m)に登った。

初めてワカンを装着。アイゼンだと靴が沈むがワカンはそんなことなく登りも下りも安定して歩けた。毛無山の頂上は展望が良く、ただ真っ白に雪をまとった様子と異なり、まるで水墨画の趣で美しかった。

夜は比婆牛のすき焼きとビールが美味しかった。こもれびの平山さんのギター演奏もあり楽しかった。でも会場が広く席が離れすぎていたため各会の懇親がいま一だったのでは？

2日目朝、目をさましカーテンを引くと窓の外は雪！低気圧の真只中なので雨を覚悟していたら雪・雪・雪に女性5人嬉しくて歓喜の声。

今日も2コースに分かれ①スノーハイク②周回登山。

私は山下さんと2人周回登山に参加。1日目の訓練に参加せず周回登山に参加したのは私達2人だけだったの

ではないだろうか。7時半、あゆみの柿木リーダーのもと出発。遅れた人は①のコースに





行くようにと時間に厳しかった。衣服調整はしないので各自そのつもりでと言われ、休憩でも時間厳守なので、もたもたしてまだですなんて言えず遅れないよう気を付けた。



センターから出雲峠(978m)までは高度差 200mの緩やかな登りで前の人足跡を進むが時折ズボッと膝まで入り込む。出雲峠から烏帽子山(1225m)までは傾斜がきつくなり、キックステップで登る。前の人足跡を崩さないよう一步一步慎重に進む。先頭を登る人はかなりきついが後続は楽だった。頂上近くでは前の人後を踏むのではなく、各自まっさらな雪の所を思い思いにキックステップで登る。頂上では昨日登った毛無山が見えた。烏帽子山から比婆山まで 30 分。比婆山(御陵)は古事記に「イザナミノ命 比婆山に葬しまつりき」とあり、美古登山とも呼び山頂にはイザナミの陵墓とされる大岩が祀られている。ここで行動食を摂る。これから下山にかかる。途中勉強のため敢えてトラバースする。スキー場の端を下るが、ここまで登山靴で歩いてきたので、せっかくだから希望者はここからワカン装着して下るよう言われたが、オレンジ 2 人はそのまま下るグループと一緒に時折シリセードを楽しみながらセンター到着。予定より 1 時間半程早く着いた。無事周回コースに付いて行けてホッとした。最初あゆみの若い人達に遅れずついて行けるか不安だったが、元オレンジ会員の S 氏のサポートで無事出来た。アイゼンなしの雪山登山だった。

終わってみて、やはり参加して良かった。あの深雪は九州ではなかなか経験出来ないから、来年も計画があったら是非参加したいと思った。

Yさん綿密な計画・取り纏め気苦労が多くて大変だったと思います。急遽会計を任せられ、持ち慣れない大金を持ち、うっかり静べえとしては不安だったが、何事もなく無事終わりホッとした。皆さんお疲れ様でした。

(田中静香 記)

**(感想 2)** 県連冬山登山学校がここ数年行われていたが私は初めて参加した。

西諫早駅では冷たい風が吹いていたが、泊まり冬山登山で気持ちはわくわくである。

長崎からのバスが七時頃着き乗り込んだ。参加は 5 つのクラブからの参加で大所帯だ！バスに揺られる事 7 時間余りで広島県の森公園センターに到着した。着くとすぐ二つのグループに別れて行動開始。私はスノーシューハイクに参加した。雪もふつてなくて暖かく登山日和だ。

途中でスノーシューを装着するよういわれた。重たくスムーズに進まない。油断したら片方を踏みつけ転びそうになる。しかし慣れるしかないと思えば進めた。必死で皆について歩いていたら毛無山へ到着。山の名の通り樹木もなく雪も少し禿げていた(笑い)。



贅沢な雪景色をながめ喜びが自然にこみあげて来た。この雪景色を来てないオレンジの方々にひと目見せたい気持ちで一杯になった。下山は曲がり角も多いし気を緩める事なく

一步一步踏みしめて歩いた。センターに着き入浴を済ませ楽しみにしていた比婆牛のすき焼きを囲んだ。ほっぺたがとろける程美味しかった！！

次の日は窓を開けたら大雪で積雪もけっこうある。私は出雲峠までの往復のコースを選んだ。トレースが残っていたのでツボ足歩行で雪とみぞれの中を歩いた。昨日より雪もけっこう降り続いたが歩きやすくてホッとした。

出雲峠に着き記念撮影。下山してセンターに到着し荷物の整理をし食事(昼食)した。

登山コースのメンバーも帰って来た。皆、バスに乗り込み出発。

二日間雪山登山を満喫して皆さん笑顔だった。バスの中では福岡さんの司会でなごやかな雰囲気だった。他のクラブに比べてオレンジの平均年齢は上の方がらしいが皆元気だった。

7時間あまりバスに揺られて予定より早く諫早に着いた。企画して下さった方々に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。無事そろって事故もなく本当に良かったです。(田村 記)

### (感想3)比婆連山冬山登山(県連登山学校): 雑感 & 蛇足

2/28-3/1 に初めて冬山登山学校に参加した。気になる点もあり無理やりの投稿だ。

朝 6:30 JR 西諫早発、乗員 40 名、午後 1:50 登山口の広島県森林公園センター着。登山口のセンター前にはすでに積雪 20-30cm、簡単な説明ののち 2:40 に雪山ハイキング組・雪中ロープワークの 2 組で出発。

吾輩生まれて初めての雪山登山用の、「スノーシュー」を経験者の他人を見よう見まねで着用した。

歩き具合ははじめのうちは少し重い程度のスリッパをひきずって歩いている感覚、登っていくにつれ次第に踵部がハズレかかりスリッパが抜けそうな感覚、こりゃいかんと足前部の爪を締め付ける。

すると一時は固定感も出て歩きやすくなる。すると今度は締め付けすぎて小指が痛くなるー左足の小指が。我慢しながらこの調子で先陣について歩き「ジグザグ」アンド「ジグザグ」を 50 回ほどはしたか、1 時間ほどで分岐らしい標識点に達した。

出雲峠・毛無山分岐点だった。考えてみると今日の登山は出発から他人の後をついていくだけ、何か変だ!!

考えてみれば地図合わせもせず・コンパスも全員が出さずでの山登りはじめだ。登山学校というのに!! もちろんこんなことをいう訳にはいかないだろうと、雪山を歩く訓練:これでいいのだ!ただ他人について登り続けたーしかし、これが後述の下りの時の吾輩の不安の材料となった。

小高い丸い形の丘状部を 4-5 回経て最後の登りらしい丘を登りきると、突然、先方から毛無山頂上という声が聞こえた。15:00 頃だった。

ちゃんと山頂の標識もあり間違いなく木も毛も無い頂上、参考にもらった、また前日に「電子国土・西偏 7.4 ・・車中説明では 6.4 との」からとって予習していた小生の頭に描いて



いた地図・コースとは全く異なる感覚だった。結局登りに 80 分ほどかかったようだった。

お互いに記念撮影後(小生のカメラは電池切れと判断される不調—全く残念)、皆は足早に下山していった。小生は遅れて頂上に着いた最後部の Ta と Fu の両氏を待ちこれまた記念撮影後 3 人で皆とは 10 数分遅れの下山。先方は見えない。はじめは揃って歩いていた 3 人だったが足のやや遅れぎみの両氏とは歩調は不調すぎ、吾輩は自己ペースとなり一人での下山となってしまった。足跡は不鮮明～不明となり下るにつれて近道の足跡も次々とあられ、これでよいのかとの不安も一時は出てきた。

今回の登路にもピンクのビニルテープもあったが近眼で安価サングラス着用の吾輩の目には十分には目立たなかった。地図を出して確かめる必要もありか??と迷ったが、足跡の確認がより確実かなと考え直した。そうこうするうちに出雲峠・毛無山の分岐標識点に来て安心した。このことはもちろん帰りのバスの中では他人には誰にも言っていない。しかし今回の登山経過の小生の大反省点だ。気についた点・疑問点? は早めに皆に提案すべきだった!

コースについては降りてきて地図を再確認して安堵した。2 日目は沢沿いの傾斜はほとんどない登路で迷いようもない路だったがこれもマップ合わせはなく雪の登路を黙々とスノーシューを着けての往復 2 時間 20 分の歩行だった。吾輩は 2 日もスリッパ歩行とでもいおうか、スノーシュー訓練だった。他の人はスノーシューを皆背負っての歩行だった。

足の痙攣が気にかかって周回登山はできなかったが、深い積雪の下での貴重な雪山体験であった。

帰宅後のチャロ(番犬)との散歩で気づいたがいつも登り階段が苦になっていたこの頃だったのが、今日は登り階段の歩行が意外と疲れないな—との感覚であり、スノーシュー訓練効果の賜物と感じている。スノーシュー万歳!!



### 以上要約替え歌:

オレンジへの贈り物(贗作 須賀山人)

比婆婆の冬山がこれほど険しいことに、歳をとるまで少しも気づかなかった。毛が無く登ってゆくことがどれほどに難しいかということさえ気づかなかった。もしも、も一度だけ登れと言われたら恐らくわたしはすぐに断るだろう。若き日の地図忘れや道迷いを、も一度繰り返すことはのぞむものではない。それが山登りの秘密、それがオレンジへのおくりもの一。

◎元歌(人生の贈り物・・さだまさし& 楊姫銀・・韓国の女性歌手、作曲)

以上 (須賀山人 記)

3月7日(土)

## 小岱山の藪椿を求めて

(参加者) 小山、川原、兵庫、中須賀、鎗水、福岡、林(孝)、中野、山口、大久保、工藤、高森、林(和) (13名)

(行程) 西諫早(6:30)ー菊池 IC-丸山キャンプ場(9:10)ー登山開始(9:30)ー丸山(10:00)ー  
観音岳(10:45)ー筒が岳(11:39)ー針の  
耳コースー丸山キャンプ場ー蓮華院  
誕生寺(14:45)ー西諫早(17:30)

(感想) 小岱山の担当になり、事前にならないと取り掛かれない準備もあってY氏やT氏、N氏と連絡をとりながら計画を立てていった。とは言うもののほとんど助けて頂いたような気がする。そのような準備の中で、地図を見てもそれほどの急登はないものと考えていた。ベテランが多い山行になったので大船にのったつもりで当日を迎えた。



車中、リーダーT氏の挨拶から始まった。K氏の「観点望気」のお話に引き込まれ、また、比婆山の話等聞きながらいつの間にか登山口の丸山キャンプ場に到着した。予定より30分遅れでCLのN氏を先頭に一チーム13名で出発した。それほどの急登はなく丸山展望台に到着した。曇りでもあり、黄砂、PM2.5の影響もあってか、展望は期待外れであった。

観音岳に向けての稜線歩きの途中は、椿の花がすでに終わってしまっており、つるりとした木肌の椿の木が数多く見られ、早春であれば見事な藪椿がみられたはずであった。



残念、さぞ、見事な藪椿の群生地であろうと想像できた。

そんな中、有明消防署の若者たちが防火予防を呼びかけながら走って上ってくるや、瞬く間に追い越して行った。「ウサギ石」の巨石を過ぎ、急登の階段を上ったら急に視界が広がり観音岳に到着した。そこから、さらに筒が岳を目指す。途中七峰台に到着、七つの峰が見渡せるほど眺望が素晴らしいらしい。遠くは雲仙、多良岳まで見えるらしいが・・・。



さらにしばらく行くと上りの筈が急降下の階段であった。

余りの急降下にチームが二分する羽目になった。計画ではこんな急登ではなかったはずだったが？二チームにすべきだったのか？地図の読み方が甘かったのか？と反省することしきり。筒が岳に一時間遅れの到着となった。昼食。帰りはまたあの急登を引き返すことに心配してのことか、計画変更し「針の耳」コースを降りることとなった。しかし、持っている地図から外れており、ベテランの皆さんの知識や経験に助けられながら、無事下山することができた。計画担当になっていたが、何一つ満足にできてなかったと反省する事しきりの今回でした。しかし、これにめげず一歩、一歩前進して行きたいと思いますので、また、よろしくお願ひします。



(林 和子 記)

## 3月14日、15日

### 開聞岳（鹿兒島）

(参加者) 川原、山下(ち)、宮崎、田中(静)、工藤、中里、高森、吉川、中須賀、山口、川内、大久保、兵庫、中野、山本、福岡、林(孝)、佐原、田村、船津、國分、鹿兒島(松元、鬼塚)一般(中原、藤本) (25名)

(行程) 3/14 西諫早駅 6:35—金立—鹿兒島—山田 IC—指宿スカイライン—千貫平公園(鹿兒島メンバーと合流)昼食—開聞岳ふれあい公園登山口 1:30 登山開始—開聞岳頂上 15:30—16:00 下山開始—登山口 18:00—うなぎ温泉湖畔荘着 19:20

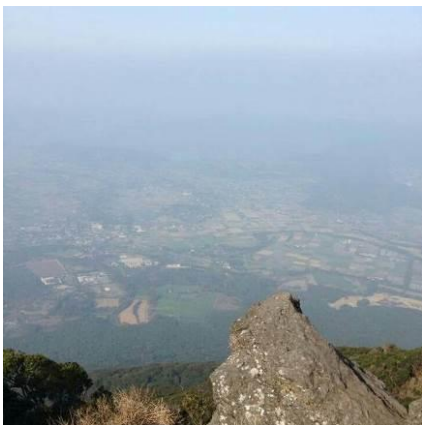
3/15、8:30 宿舎発—9:40 鑑真記念館—枕崎漁港お魚センター（昼食）—諫早着

(感想) 3月14日出発！私にとってはオレンジへ入会して初めての2日間での山行です。

今回は知人も一緒の参加で楽しみも膨らみます。まずは早朝の鎗水さんの見送りに感謝しつつ(後にすぐさまホームページへのアップにも感動)。

鹿兒島へのいつもより少し遠い旅路へ〜〜バスの中では会話も弾みます。

当日の天気は快晴とはいきませんでした。まずまずの登山日和。予報では明日は雨との事。リーダーの適切な判断で矢筈岳の予定を開聞岳へ変更。お昼を済ませた後に登山口まではカーブの多い山道を進みます。海が見えたと思ったら



「わあっ！」と歓声が上がり突然に「出逢ってしまった」と、ときめく位に気高くそびえる開聞岳の姿に見とれてしまいました。時間は13時半。遅めの出発で多くの下山客ともすれ違っています。松の多い場所、ガレ場やゴロゴロと大きな石が重なっている危なげな所、時を重ねた造形の根っこや梯子にロープを使っての登りはとてもバリエーションに富んだ道でした。日没に間に合う様にといつもよりスピードを上げての歩きは少しハードでしたが、後にリーダーの的確な判断と思い知らされます。

山頂へ近づくとつれ展望も広がり春霞ながらも美しい景観でした。登山者も多く渋滞の山頂にすぐさま別れを告げ日暮れまでにと足元を注意しながら下山となりました。

途中様々な植物の名前を教えて貰いながら、ショウジョバカマはもうすぐ花を咲かせることを知りました。山下リーダーの後ろに遅れまいとぴったり一生懸命ついて行きながらも、岩や枝に手を添えるリーダーの可愛らしい手にショウジョバカマの可憐な花を重ねて想像してみたり。今度は咲いている花を見てみたいものです。

時間は多少のばらつきはあったものの、怪我もなく皆無事に下山出来て胸を撫で下ろしました。

今宵の宿はうなぎ温泉「民宿うなぎ湖畔」昭和の香り漂うノスタルジックな雰囲気。温泉蒸しや地元ならではの料理は食べきれない程。ほろ酔いの皆さんの和気あいあいとした雰囲気に癒され、源泉掛け流しの湯ではうなぎ温泉だけに女性陣は艶肌美人へ。男性陣は男っぷりもうなぎ登りですね。

程よい疲れは眠気を誘い〜ぐっすり翌朝の雨にも気付かぬまま目覚めると、やはり予報通りで予定の登山を観光へ切り替え(オレンジならではの良い所ですね)鑑真記念館へ。

遠い歴史と目の前に見える波立つ海原とリンクさせながら想いを巡らせ...そして川原さんや中須賀さんの解説も興味をそそる味付けとなりました。

お昼も枕崎のとおき！高級本枯節を使った船人めしでお腹を満たし帰途へ。それぞれにお好みの食事やお土産選びを楽しまれたのではないのでしょうか。

帰りのバスでもユーモアたっぷり、愛情たっぷりの美声も飛び交い最後まで楽しむ事が出来ました。

今回はリーダーの大変さや判断の重要性、安全に登山するための知識や体力面等、会計や諸々の心配り。初心者にとってはとても勉強になる事ばかりでした。

そして、皆さんが山を愛し、仲間を大切にされ、楽しんでいらっしゃる姿がとても素敵でした。

まだまだ未熟者の為、至らぬ事ばかりでしたが少しずつでも経験を重ね、知識を増やし一歩ずつ地道に頑張ろうと思いました。もちろん、共に楽しみながら。

今回も皆様には大変お世話になり、楽しい山旅となりました。本当にありがとうございました。



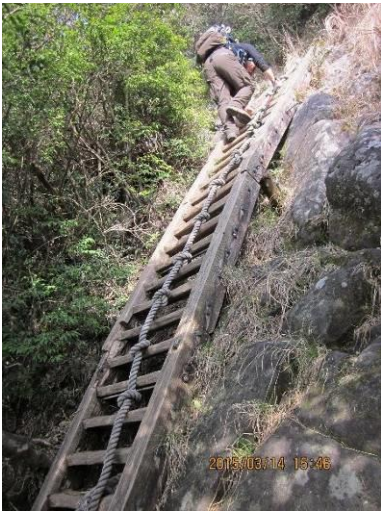
(宮崎 記・写真も)

今から、開聞岳にいつてきま〜す！！



今日はこのバスで出発。  
鎗水氏の見送りをうけて、「行ってきま〜す」

鹿児島の人達と合流した  
千貫平公園。みはらしがよ  
かった。ランチもここで。



頂上も混み合っていました。  
やっと、標柱の前があきました。  
あわてて集まってパチリ



もう、お腹いっぱい  
いで〜す！！！！



民宿の露店風呂。先の方で女湯と繋がってる。  
カメラ構えてたけど誰も来ず(@\_@;)



ゆきげしき四点



おれんじニュース 301	
発行元	オレンジハイキングクラブ
発行責任者	福岡正廣
編集責任者 及び 編集委員	山下ちず子 福岡正廣、鎗水律夫、中野美津子、山口いつ子、 山下文代、林和子、兵庫芳隆(事務局長)
発行年月日	2015.3.25
財政担当	
郵便振替口座	
ホームページ	<a href="http://orangehikingclub.com/">http://orangehikingclub.com/</a>

早いもので、雪の写真もあれば、梅の花便りも多く寄せられた4月号です。桜の便りは来月号になりますね。今咲いてるのは河津桜、少しピンクが濃い桜ですね。山での野草なども楽しめる季節になりました。お互いにマナーを守って、自然を楽しみましょう。

(山下ちず子)